

新・群馬県総合計画策定懇談会（第3回）議事概要

1 日時

令和2年5月19日（火） 15時30分～17時30分

2 場所

群馬県庁6階 秘書課会議室（Web会議）

3 出席者数

策定懇談会構成員12名、県関係者約25名

4 議題

新・総合計画ビジョン検討案について

5 構成員の主な意見

（新・総合計画ビジョン検討案について）

- ・ ウィズコロナと言うけれども、喉元を過ぎれば戻るだろうという意見がある一方で、何かこれを機会に変えていきたいというような思いや声があるのも確かなのかなと思っている。
- ・ Society5.0についてはテクノロジー、デジタルが駆動しているが、逆にデジタルによる不安や不満も高まっている。
- ・ 過密ではないからこそできること、なおかつ、誰一人取り残さない社会の仕組みづくりを、現実味を持って決意表明すると、県民にとって嬉しいメッセージになる。
- ・ コロナで大事になったことは、デジタルイノベーションの技術、つまり居場所に辿り着く手段を準備することが大切になるということ。
- ・ コロナ禍においても、人間のスペックは変わらない。ソーシャルディスタンスをするために色々な所を広く作っても私たちの手足の長さは変わらないし、聞こえる範囲なども変わらない。デジタル化が進んだり、働き方のニーズなどが変わっていくと思うが、本能的なところは、人間は動物と変わらないので変わらないと思っている。
- ・ 人に会っている時は五感で相手を感じていると思うので、オンライン上なら、自分の容姿は問われなくて済むのでいい、というより、どんな容姿でもリアルで会って問われない世の中の方が正しいと思う。
- ・ 海外は、例えば業界でダメージを受けたところは、オンラインでいかに稼ぐかをどんどん考え始めていて、非常にプラクティカルに動くし、それが結果として分散型になるのは間違いないと思っている。
- ・ 日本で進まなかった色々なところ、働き方改革などやらなければいけないと思われ続けていて、日本で変えたいなと思っているところを変えるチャンスと捉えている日本人が多いのではないかというのが印象的である。
- ・ ステイホーム、これは密を作らないということで非常に良いとは思いますが、実際に東京や大阪など大都市圏であると、通勤の中の運動量という観点では非常に落ちることが良く分かった。
- ・ PC1人1台といったデジタル化を進めているが、実は高齢者の中のデジタル格差が一気に進むのではないかということも気になっている。

- 誰一人取り残さない社会という中で、出てきて集まるのが厳しくなる状況の中で、一人暮らしの方々の健康状態、あるいは生活というものを、公共、地域住民、あるいは民間企業、こういったところが一緒になって、カバーし合えるか。そうでないと新たな格差が出てくるのかなと不安に思っている。
- 自立分散型社会が重要なポイントだと思う。
- 豊かな歴史や風土を含めたものを上手く生かして地域を作っていく。こういったところが多発的に出てきて、それがネットワーク化して一つの群馬県になる。このような、ブランディングができると、すごく良い。
- 人と人との信頼をどうやって作っていくかが、重要なテーマとして出てくるのではないだろうか。
- いかに群馬県がデジタル化したとしても、それが東京からやってきた高学歴の方たちだけがやっているのではあまり意味がない。そういう方たちもいれば、群馬の方たちもそこで働けるような環境を作っていくという意味で、教育は非常に大切である。
- このビジョンを具体的に戦略・戦術に落とした時、どういった言葉になるだろうか。個々の生活を群馬県がどう変えるのかを端的に分かりやすい言葉にする事により多くの人を巻き込みやすくなると感じる。
- 全てをデジタル化するのではなくて、何かが起きた時に、すぐに指示が出せて、すぐに準備ができて、それに対応できるような状況にあるとか、対応できるように教えるサービスが整っていると、素晴らしいと思う。
- ニュースを見るようになるとか、新聞を読むようになるとか、自分で情報を集めるとか、生きていく上での色々な見方というのは、コロナのことがあって、若い人にとっては、すごく勉強になり、すごく大切である。
- ビジョンを進めていくには、各企業が自立しなければいけないと思う。中小企業の自立という意味では、何か有事の時に、自立して、スピーディに対策を実行できる力が必要だと思う。頼りっきりのことは良くない。
- 群馬県は、地産地消という点で、他県と比べても強いことを改めて感じた。
- コロナ以前よりも農業に対する需要はさらに高まると思っている。他県からも農業をやりたいという人たちが興味を持っている。